



第2回地域包括ケアセミナーの報告

平成30年10月27日（土）に三重県志摩市にて第2回地域包括ケアセミナーを開催いたしました。

今回は2名の先生方に「心とからだの痛み治療」についてご講演いただきました。

前回に引き続き多くの方々にご来場頂き、またフロアからの質問も多く、充実したセミナーになりました。

※当日の抄録を最後に掲載しております。



司会の西岡洋右先生



第1部では、順天堂大学医学部脳神経内科准教授の西岡健弥先生に【パーキンソン病の治療とリハビリテーション～効果の出せる進め方1.2.3!～】についてご講演を頂きました。

この講演では、パーキンソン病についての正しい知識や基本的な治療の仕方、また最先端の治療法についてわかりやすく解説をしてくださいました。



西岡健弥先生



第2部では、順天堂大学医学附属練馬病院メンタルクリニック准教授の臼井千恵先生に【難治性の痛みの治療～心と身体の両面のケアから～】についてご講演を頂きました。

この講演では、線維筋痛症についての研究結果をふまえながら、今後この病気とどのように向き合うべきなのか、またセルフメディケーションにつながる痛みのアプリを作成したことから、このアプリがどのような効果をもたらすのかについても解説をしてくださいました。



臼井千恵先生



パーキンソン病の治療とリハビリテーション ～効果の出せる進め方1.2.3!～

順天堂大学医学部脳神経内科 准教授
西岡健弥

パーキンソン病は脳内のドーパミンが約70-80%程度低下すると発症する疾患です。症状は手のふるえ、四肢や体の特有の硬さ、歩行が困難となり、ゆっくりと動くようになります。ご高齢の方に多い疾患であり、国内では約15万人いるとされています。60代、70代、80代と年齢が上がるにつれて、発症率は上がっていきます。日本は超高齢化社会を迎えており、今後も患者さんの数は増え続けることが予想されています。

今回のセミナーでは、患者さんやそのご家族の方々を対象に、パーキンソン病の基本的な疾患概念、私の研究分野である分子生物学的視点から見たパーキンソン病、基本的な治療の仕方、iPS細胞も含めた最先端の治療方法、早期からのリハビリテーションの重要性について、できるだけ専門用語を避け、分かりやすくお話する予定です。

難治性の痛みの治療 ～心と身体の両面のケアから～

順天堂大学附属練馬病院メンタルクリニック 准教授
臼井千恵

線維筋痛症(FM)は全身の疼痛を主症状とし不眠、抑うつ、疲労感等様々な症状を伴う原因不明の疾患である。人口の約2%の患者が存在しているが、FMの病態は殆ど解明されていない。診断がつくまでに数年かかる患者も多く、莫大な医療費の損失が起きている。演者らの研究でFMではSingle Photon Emission Tomography (SPECT)にて、default mode networkの問題が存在(*Arthritis Research & Therapy* 2010)すること、電気痙攣療法にて視床、帯状回、海馬回の血流改善を介してFMの痛みが改善すること(*Pain* 2006)を確認し、FMが脳機能障害であることが示唆された。(*Nature Reviews Disease Primers* 2015)。さらに東日本大震災におけるFMのストレス関連の研究にて、認知の問題も確認しており(*Arthritis Research & Therapy* 2013)、認知に関わる脳内領域(*Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry* 2017)にも注目している。現在はfMRIにて脳内の機能的連絡を研究している。

脳機能画像研究の一方で、治療面では、薬物治療のみでの限界を感じており、リハビリや認知行動療法、個々の増悪予防法などが必要であることを実感している。このため、セルフメディケーションにつなげるような研究の一つとして、痛みのアプリを開発した。FMは慢性疼痛の一部であるため、慢性疼痛を対象を拡大した。

現在、国内の慢性疼痛保有率は13.4%、約1,700万人に上るといわれており、その中でも痛みの症状が良くならない人は77.6%との調査結果もある。日本人は痛みを我慢してしまう傾向があり、軽症では医療機関を受診しないまま重症化してしまうことも少なくない。

痛みはストレス、不眠、気象などの影響で強まるとも言われている。アプリを利用して、病院での診察場面だけでなく日常生活での痛みや抑うつ気分、睡眠障害や運動量等の情報と気象情報と痛みの変化のデータを収集し、ビッグデータ解析することで、慢性疼痛の増悪因子の究明に繋げる予定である。また、アプリの利用により、ユーザーが痛みの変化を記録し可視化することで、慢性疼痛患者のセルフメディケーションの効果があるかについても究明する予定である。

一般財団法人難病治療研究振興財団 事務局

〒100-0013東京都千代田区霞が関1-4-1日土地ビル1階

電話:03-3580-8532 FAX:03-3580-8533 E-mail:info@jmrf-nanbyou.org

URL: <http://www.jmrf-nanbyou.org/>

本紙を許可なく転載することを固くお断りいたします